



[会社概要] 2020年3月31日現在

商号 株式会社サニックス  
本社 福岡市博多区博多駅東2丁目1番23号  
設立 1978年9月  
資本金 140億4,183万円  
従業員数 2,008人(連結)

## 株式会社サニックス

〒812-0013  
福岡市博多区博多駅東2丁目1番23号  
TEL.092-436-8870  
URL.<https://sanix.jp>

# SANIX

## 第42期株主通信

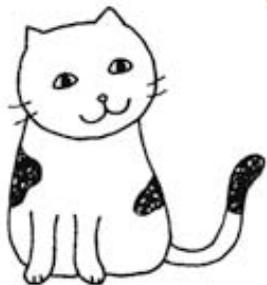
2019年4月1日から2020年3月31日まで



## 次世代へ快適な環境を

サニックスは、害虫駆除から廃棄物リサイクル、エネルギー事業まで、快適な環境をつくり次世代へ手渡すためのサービスをご提供しております。

「環境負荷の低いエネルギーが当たり前の社会」、「快適な住環境を次世代につなぐのが当たり前の社会」、「捨てないが当たり前の社会」づくりをリードする企業を目指します。



イメージキャラクター「はる」

### SOLAR ENGINEERING

#### SE(ソーラー・エンジニアリング) 事業

製造から販売、施工、メンテナンスまで、太陽光発電システムのワンストップサービスにより、再生可能エネルギーの普及拡大を図ります。

### HOME SANITATION

#### HS(ホーム・サニテーション) 事業

大切な財産である住まいを、湿気・シロアリによる被害や自然災害から守るため、高度な専門技術を提供し、快適な住環境を創造します。

### ESTABLISHMENT SANITATION

#### ES(エスタブリッシュメント・サニテーション) 事業

ビル・マンションの給排水設備に関するメンテナンスなど、企業の衛生管理をトータルにサポートします。

### ENVIRONMENTAL RESOURCES DEVELOPMENT

#### 環境資源開発事業

廃棄物をエネルギー資源等として再生・再利用するリサイクルシステムにより、循環型社会の実現に貢献します。

### ENERGY

#### エネルギー事業

「分散型エネルギーシステム」に代表される次世代のエネルギーシステムの開発・事業化を図ります。

## CONTENTS

トップメッセージ .....	P3
トピックス .....	P5
3年間の連結業績推移 .....	P9
営業概況 .....	P10
連結財務諸表 .....	P11
会社・株式データ .....	P13

## これまでの経験と新しい挑戦により、 持続可能な社会づくりに、 取り組んでまいります。

株主の皆様には、サニックスの事業へのご理解とご支援を頂き、厚く御礼申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症に罹患された皆様及び関係者の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

当社の事業活動につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の状況及び政府・地方自治体からの要請等の状況を踏まえて、柔軟に対応してまいります。

「中期経営計画」の初年度にあたる2020年3月期においては、既存事業を基盤とし安定的な収益構造の構築を優先しつつ、新たな事業・サービスを展開しさらなる成長を目指してまいりました。

その結果、2020年3月期売上高は、52,531百万円(前期比3.6%増)と増収となりました。利益面においては、2,791百万円の営業利益(前期比127.9%増)、2,592百万円の経常利益(前期比119.2%増)と増益となりました。また、2019年3月期は北海道胆振東部地震の復旧費用として特別損失を472百万円計上した影響により、親会社株主に帰属する当期純利益は、1,850百万円(前期比670.7%増)と大きな伸びとなりました。

なお、2020年3月期の配当につきましては、利益剰

余金がマイナスであることから、誠に遺憾ながら、無配とさせていただきます。株主・投資家の皆様には、誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。

2021年3月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大による国内経済及び当社業績に与える影響に関しまして、現時点では合理的な算定が困難であることから未定としております。今後、予想が可能となりました段階で速やかに公表いたします。何卒ご理解賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

このような状況下においても、当社グループは住環境領域、資源循環領域、エネルギー領域の各領域において、これまでの事業経験を活かし、新たな挑戦によって、企業理念である「次世代へ快適な環境を」のもと、持続可能な社会づくりに引き続き取り組んでまいり所存です。

変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2020年6月



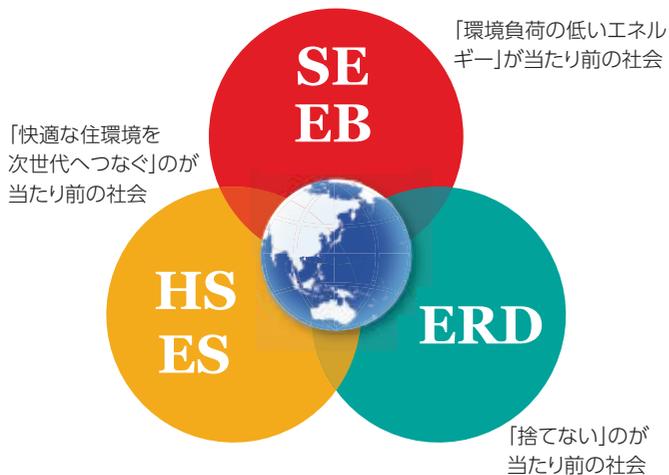
株式会社サニックス  
代表取締役社長

宗政 寛

## トピックス

### 当社とSDGsとの関わり

当社グループは、企業理念「次世代へ快適な環境を」、ビジョン「環境とエネルギーのトップ企業へ」のもと、持続可能で快適な社会づくりに貢献することで、さらなる成長を目指しながら、事業活動を行なっています。持続可能な開発目標 (SDGs) とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。その中で、当社の事業と関連深い目標についてご紹介します。



### エネルギー領域 (SE事業・エネルギー事業)

#### SE事業

製造から販売、施工、メンテナンスまで、太陽光発電システムのトータルサービスにより、「いいものをより安く」ご提供し、住宅用から産業用まで、再生可能エネルギーの普及拡大を図ります。

#### エネルギー事業

エネルギーとの向き合い方が多様化している中で、省エネ、創エネ、蓄エネ等の多様化する時代のニーズに応えることにより、脱炭素社会の実現に貢献します。

関連が深いSDGsの目標

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



13 気候変動に  
具体的な対策を



### 住環境領域 (HS事業・ES事業)

#### HS事業

湿気・シロアリの被害は、大切な財産である住まいの寿命を縮める要因の一つです。被害を未然に防ぐ「予防」の大切さを説く独自の営業活動と高度な専門技術の提供により、家屋の健康をおびやかす原因を根本から断ち、「快適で長く住める家づくり」に貢献します。

#### ES事業

ビル・マンションの給排水管の設備保全、飲食店や食品工場等の衛生管理 (ペストコントロール) をトータルにサポートすることにより、安心、安全な職場環境、及び住環境の維持に貢献します。

関連が深いSDGsの目標

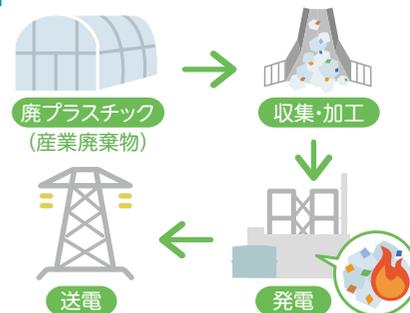
6 安全な水とトイレ  
を世界中に



11 住み続けられる  
まちづくりを



### 資源循環領域 (環境資源開発事業)



関連が深いSDGsの目標

6 安全な水とトイレ  
を世界中に



7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



#### 資源循環型発電事業

産業廃棄物系プラスチックの燃料化を目的としたプラスチック資源開発工場を全国各地に15工場展開しています。工場にて加工、燃料化したプラスチックをサニックスエナジー (連結子会社) 等に販売し、発電しております。石炭と比べて発電量が高く、CO<sub>2</sub>排出量や焼却灰発生量が少ない等、環境負荷が少なく、付加価値が高い電気エネルギーの供給により、資源循環型社会の実現に貢献します。

#### 有機廃液事業

食品工場等から排出される汚泥や廃棄飲料等を、微生物処理等により浄化しています。処理工程で発生する脱水汚泥は、セメントや堆肥の原料として、分離した油分は燃料として、それぞれ再利用されることにより、資源循環型社会の実現に貢献します。

12 つくる責任  
つかう責任



14 海の豊かさ  
を守ろう



## 新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組み

当社グループでは、新型コロナウイルス感染症への対応につきまして、社内に対策本部を設置し、お客様、お取引先様、地域社会の皆様、従業員とその家族の安全確保、感染予防ならびに感染拡大防止を最優先とした対策を講じてまいりました。

5月25日、緊急事態宣言が全国的に解除されたことに伴い、当社全事業拠点におきまして、通常営業を再開しました。

(5月末現在)

### 1. 緊急事態宣言下での主な取り組み(～5月25日)

#### ①健康管理・感染防止行動の徹底

- 毎朝の検温等による健康状態の確認、就業可否判断の実施
- 出社時・帰社時のうがい・手洗い、咳エチケットの徹底
- 従業員に対するマスクの配布、着用の徹底
- 従業員に対する外出自粛要請
- 通勤は、可能な限り混雑する公共交通機関を避ける

#### ②勤務体系

- 時差出勤、シフト勤務、在宅勤務等の活用
- 本社本部機能の分散による事業継続性の担保

#### ③営業活動中

- 訪問前に手指消毒を実施して訪問
- お客様の所有物、設備に触れたら、アルコールで拭き取り
- お客様が従業員の所有物(携帯端末等)に触れる場合も、事前にアルコール拭き取り

#### ④社内会議やイベント・出張等

- 会議、研修、イベントの原則禁止
- 国内出張の原則禁止
- 海外渡航の禁止
- テレビ会議の活用

### 2. 最新情報について

これからも、お客様、お取引先様、地域社会の皆様、従業員とその家族の安全確保・感染予防と感染拡大防止を最優先としつつ、日々変化する状況に鑑み、感染拡大の状況及び、政府・地方自治体の動向を踏まえて、柔軟に対応、事業活動を行なってまいります。最新の情報については、当社ホームページ(<https://sanix.jp>)にて、ご確認ください。

## TEPCOホームテック株式会社との提携

東京電力グループのTEPCOホームテック株式会社(以下「TEPCOホームテック」と)との提携により、TEPCOホームテックが提供する「省エネ」・「創エネ」・「蓄エネ」機器の定額利用サービス「エネカリ」のオンラインサイトを通じて、関東一都六県(東京都、神奈川県、千葉県、群馬県、埼玉県、栃木県、茨城県)において、サンニクス製の太陽光発電システム、および住宅用蓄電システムの販売を開始しました。



当社では、エネルギーとの向き合い方が多様化する中、幅広くエネルギー関連事業を開発、推進していくため、2019年4月「エネルギー事業開発部」を新設する組織改編を行いました。当社が有する電力の事業基盤および他社との協業等を活用し、さらなる「再生可能エネルギーの普及拡大」に貢献してまいります。

### 「エネカリ」について

「エネカリ」とは、TEPCOホームテックが提供する初期費用0円の「省エネ」・「創エネ」・「蓄エネ」機器の定額利用サービスです。このサービスの利用により、太陽光発電の自家消費分と余剰売電分で経済的メリットがうまれます。また東京都と神奈川県にお住まいのお客様については、それぞれ助成金・補助金事業の対象となる場合があり、お支払いいただく月々のご利用料金がお安くなります。

### 「エネカリ」の特徴

- 初期費用0円で太陽光発電システムなどの機器を設置(毎月の定額利用)
- 利用期間満了後、機器の無償譲渡
- 利用期間中の安心保証(機器の故障、風水害や落雷等の損害などへの保証)
- 24時間365日、TEPCOホームテックのコールセンターで安心サポート



## 3年間の連結業績推移

### 3年間の連結業績推移

	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期
売上高(百万円)	49,993	50,719	52,531
営業利益(百万円)	1,246	1,224	2,791
経常利益(百万円)	1,019	1,182	2,592
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	1,180	240	1,850
資本金(百万円)	14,041	14,041	14,041
(期末発行済株式数)(千株)	(48,919)	(48,919)	(48,919)
総資産額(百万円)	29,938	31,009	32,514
純資産額(百万円)	4,076	4,193	6,056
自己資本比率(%)	13.50	13.42	18.55
1株当たり純資産額(円)	84.54	87.08	126.15
1株当たり配当額(円)	—	—	—
(内1株当たり中間配当額)	(—)	(—)	(—)
1株当たり当期純利益(円)	24.68	5.02	38.72
自己資本利益率(%)	34.43	5.85	36.31
従業員数(名)	1,788	1,911	2,008

—は0。

## 営業概況

当社グループは「中期経営計画」の初年度において既存事業を基盤とし安定的な収益構造の構築を優先しつつ、新たな事業・サービスを展開しさらなる成長を目指してまいりました。

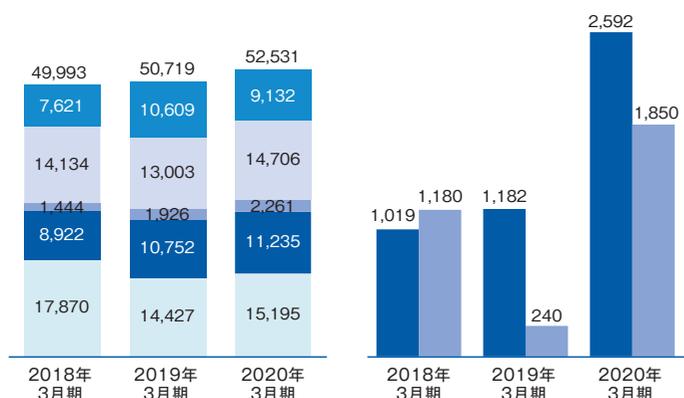
2020年3月期の売上高は52,531百万円(前期比3.6%増)となりました。利益につきましては、環境資源開発事業部門において前期は北海道胆振東部地震の影響があったため、その反動が大きく、2,791百万円の営業利益(前期比127.9%増)、2,592百万円の経常利益(前期比119.2%増)となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は1,850百万円(前期比670.7%増)と大きな伸びとなりました。

2020年3月期の各事業部門の状況は次のとおりです。

売上高は、SE事業部門は15,195百万円(前期比5.3%増)、HS事業部門は11,235百万円(前期比4.5%増)、ES事業部門は2,261百万円(前期比17.4%増)、環境資源開発事業部門は16,759百万円(前期比18.7%増)、エネルギー事業部門は9,132百万円(前期比13.9%減)となりました。

利益面では、SE事業部門は901百万円の営業利益(前期比25.1%減)、HS事業部門は2,061百万円の営業利益(前期比7.6%減)、ES事業部門は281百万円の営業利益(前期比1.9%減)、環境資源開発事業部門は3,483百万円の営業利益(前期比721.7%増)、エネルギー事業部門は485百万円の営業損失(前期は412百万円の営業利益)となりました。

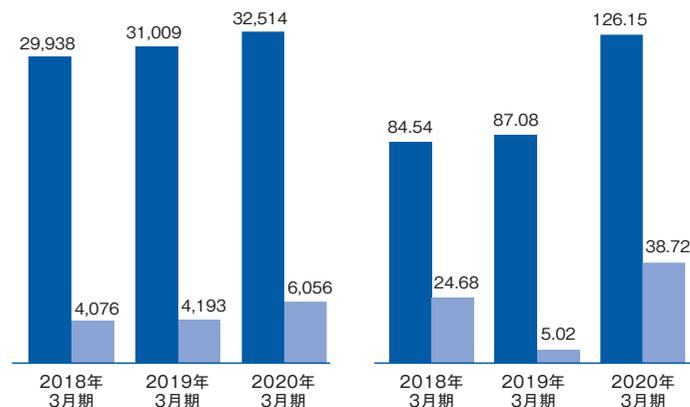
■ セグメント別売上高 (百万円) ■ 経常利益・当期純利益 (百万円)



SE 部門 HS 部門  
ES 部門 環境資源開発 部門  
エネルギー 部門

経常利益  
当期純利益

■ 総資産・純資産 (百万円) ■ 一株あたり純資産・一株あたり当期純利益 (円)



総資産  
純資産

一株あたり純資産  
一株あたり当期純利益

## 連結財務諸表

貸借対照表		単位:百万円		
資産の部	前期末 2019年3月31日現在	当期末 2020年3月31日現在	増減金額	
<b>流動資産:</b>				
現金及び預金	5,238	5,919	681	
受取手形及び売掛金	6,010	5,453	△ 557	
たな卸資産	4,688	3,745	△ 943	
その他	676	1,159	482	
流動資産合計	16,613	16,277	△ 336	
<b>固定資産:</b>				
有形固定資産	12,057	13,739	1,681	
無形固定資産	262	450	187	
投資その他の資産	2,074	2,047	△ 27	
固定資産合計	14,395	16,237	1,841	
資産合計	31,009	32,514	1,505	
<b>負債の部</b>				
<b>流動負債:</b>				
支払手形及び買掛金	4,188	3,716	△ 472	
短期借入金	12,297	9,525	△ 2,772	
一年以内返済予定長期借入金	143	928	784	
未払金	3,930	3,471	△ 459	
その他	2,968	3,936	967	
流動負債合計	23,529	21,576	△ 1,953	
<b>固定負債:</b>				
社債	—	500	500	
長期借入金	210	262	52	
退職給付引当金	1,642	1,727	85	
役員退職慰労引当金	9	9	—	
その他	1,423	2,381	958	
固定負債合計	3,285	4,881	1,596	
負債合計	26,815	26,458	△ 357	
<b>純資産の部</b>				
資本金	14,041	14,041	—	
資本剰余金	1	1	—	
利益剰余金	△ 8,357	△ 6,506	1,850	
自己株式	△ 1,481	△ 1,481	△ 0	
少数株主持分	31	26	△ 4	
その他	△ 42	△ 25	16	
純資産合計	4,193	6,056	1,862	
負債及び純資産の部合計	31,009	32,514	1,505	

△は損失及び減少、-は0。

損益計算書		単位:百万円		
	前期 自2018年4月1日 至2019年3月31日	当期 自2019年4月1日 至2020年3月31日	増減金額	
売上高	50,719	52,531	1,811	
SE事業部門	14,427	15,195	767	
HS事業部門	10,752	11,235	482	
ES事業部門	1,926	2,261	335	
環境資源開発事業部門	14,116	16,759	2,643	
エネルギー事業部門	10,609	9,132	△ 1,477	
内部売上高調整額	△ 1,113	△ 2,053	△ 939	
売上原価	35,889	34,974	△ 914	
売上総利益	14,830	17,556	2,726	
販売費及び一般管理費	13,605	14,765	1,160	
営業利益	1,224	2,791	1,566	
営業外収益	209	164	△ 44	
営業外費用	251	363	111	
経常利益	1,182	2,592	1,409	
特別利益	—	—	—	
特別損失	472	—	△ 472	
税金等調整前当期純利益	710	2,592	1,882	
法人税、住民税及び事業税	498	734	236	
法人税等調整額	△ 24	11	36	
少数株主利益	△ 3	△ 4	△ 1	
当期純利益	240	1,850	1,610	

△は損失及び減少、-は0。

キャッシュ・フロー計算書		単位:百万円		
	前期 自2018年4月1日 至2019年3月31日	当期 自2019年4月1日 至2020年3月31日	増減金額	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 25	4,080	4,105	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 947	△ 2,154	△ 1,206	
財務活動によるキャッシュ・フロー	392	△ 1,110	△ 1,503	
現金及び現金同等物の増減額	△ 585	761	1,346	
現金及び現金同等物の期首残高	5,083	4,497	△ 585	
現金及び現金同等物の期末残高	4,497	5,259	761	

△は支出及び減少。

## 会社・株式データ (2020年3月31日現在)

### 株式の状況

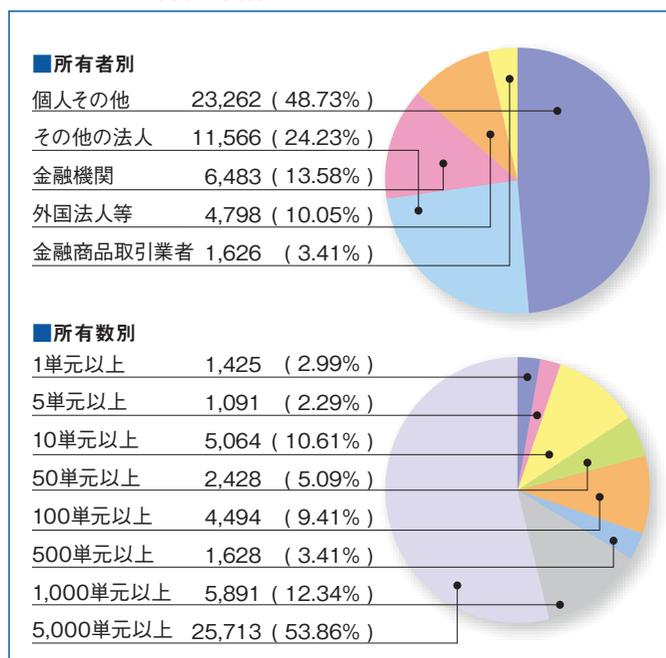
発行可能株式総数	163,500,000株
発行済株式総数	48,919,396株
株主総数	13,745名

### ■大株主

氏名又は名称	持株数	持株比率
株式会社バイオン	8,716千株	18.23%
宗政 寛	6,454	13.50
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,408	5.04
一般社団法人サニックス共済会	1,700	3.56
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,577	3.30
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	1,420	2.97
KOREA SECURITIES DEPOSITORY-EBEST	1,260	2.64
サニックス社員持株会	961	2.01
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	678	1.42
株式会社西日本シティ銀行	536	1.12

※持株比率は、自己名義株式(1,114,443株)を控除して計算しております。

### 株式分布状況 (単位:千株)



※自己名義株式(1,114,443株)及び単元未満株式を除いて集計しております。

### 取締役 (2020年6月26日現在)

代表取締役社長	宗政 寛	取締役常務執行役員	武井 秀樹
取締役専務執行役員	梅田 幸治	取締役	高木 哲夫
取締役常務執行役員	井上 公三	取締役(常勤監査等委員)	首藤 征剛
取締役常務執行役員	稲田 剛士	取締役(監査等委員)	近藤 勇
取締役常務執行役員	水川 浩一	取締役(監査等委員)	金子 直幹
取締役常務執行役員	金子 賢治	取締役(監査等委員)	久保田 康史
取締役常務執行役員	増田 道正	取締役(監査等委員)	安井 玄一郎
取締役常務執行役員	田畑 和幸	取締役(監査等委員)	松岡 弘明

(注)取締役 近藤勇、金子直幹、久保田康史、安井玄一郎、松岡弘明は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

### 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当の基準日	毎年3月31日、6月30日、9月30日、12月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人および特別口座管理機関	みずほ信託銀行 証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
フリーダイヤル	0120-288-324(土日祝日を除く 9:00～17:00)
上場証券取引所	東証一部、福証
公告の方法	電子公告
	公告掲載URL: <a href="https://sanix.jp">https://sanix.jp</a>

(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

### 【ご注意】

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、みずほ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(みずほ信託銀行)にお問い合わせください。なお、みずほ信託銀行及びみずほ証券全国各支店にでもお取次ぎいたします。